

第30回 全国キリスト教学校人権教育セミナー

想像力を豊かに持とう

—出合いから無関心・不寛容な時代を変える—

2019年8月5日（月）～ 7日（水）

<オプション>フィールドワーク 8月5日

会場：大阪女学院

中学・高等学校・短期大学・大学



主催

第30回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会

全国キリスト教学校人権教育研究協議会

(ホームページ <http://zenkiri.junyx.net>)

【開催の目的】

- ①キリスト教学校および公私立学校で人権教育に関心を持っている教職員、また人権教育に関心を寄せるキリスト者・市民・保護者・学生の出合いの場をもつ。
- ②人権教育の実践に学び合い、分かち合い、建設的な関係を築く。
- ③キリスト教学校での人権教育のあり方を探求し、人権教育の広がりを作る。

第30回 全国キリスト教学校人権教育セミナー要項

想像力を豊かに持とう ―出会いから無関心・不寛容な時代を変える―

30回を迎えたセミナー

全キリ人権教育セミナーは、今年で30周年を迎えます。そこで今回のセミナーは、人権セミナーの始まった大阪で開催し、その中学高校が「解放教育」を掲げ実践してきた大阪女学院を会場に、人権教育の原点を確かめ、その新たな展望について共に学び、考えたいと思います。現在の世界・日本を覆う無関心・不寛容を変えていく契機になることを願って、大阪ならではのフィールドワーク（現地学習）と、人権を意識する想像力を呼び起こす試みを、多く盛りこんだセミナーを用意します。

会場校の大阪女学院について（会場校教員より）

大阪女学院は2人の宣教師兄弟、A.D.ヘールと弟のJ.B.ヘールによって1884年、米国カンバーランド長老教会のミッションスクールとして、大阪の西区川口外国人居留地2番に『ウキルミナ女学校』として創設、開校されました。当時、日本政府は熱心に教育事業に取り組み、公立学校が至る所で建てられました。そこではキリスト教の教えが、日本の思想に反するため、教えることを禁止されていました。それを知った2人は、学校でキリスト教教育を行い、創造主である神を知り、自分も他の人の命も大切に人間を育成したいと思ったのです。それがウキルミナ女学校、現在の大阪女学院の始まりです。

大阪女学院の建学の精神は「キリスト教に基づく教育を目指し、神を畏れ 真理を探究し、愛と奉仕の精神で社会に貢献する女性を育成すること」ですが、中でも『愛と奉仕』は大阪女学院のモットーとなっています。

我が校の解放教育の歴史を語る上でどうしても無視できない事柄があります。1980年大阪女学院中学で一人の退学者を出しました。そのことに関する会議の場で管理職から差別発言がありました。その発言を問題視した職員もいましたが、その場で意見することもなく、ほとんどの者はその問題性に気付くことなく容認されていきました。潜在的な差別意識が蔓延していたのです。そのことを外部団体に指摘され、初めて問題性に気付かされ意識改革に取り組むことになりました。「学習会での学び」「制度改革」「管理職・主任・部長の公選制」、そして解放教育への本格的な取り組みが始まり現在に至ります。40年近く経つと、当初の思いや決意も他人事になりマンネリ化し、世間の風潮に流される傾向があります。今回、全キリの会場校にさせていただいて、私たち自身も原点に戻れる機会になればと密かに考えています。

中高の解放プログラムとしては平和学習・被差別部落・民族問題を軸として、各学年で取り組んでいます。本校は鶴橋にも近く、常に在日の生徒も在籍していますので、民族問題（在日問題）は見逃せない課題です。教職員対象のプログラムとしては、解放学習会やフィールドワークも企画しています。

何故「人権」ではなくて、「解放」なのか？

大阪女学院中高では「人権教育」ではなく「解放教育」という呼び方を使っています。言うまでもなく、もともとは部落「解放」運動から始まった呼び方ですが、それだけではなく、イエス・キリストによって罪赦された私たち（差別する側の人間）が、罪から『解放』され、真に自由な心で人間関係を形成していくことを目指しています。「人は皆、神によって作られたかけがえのない存在」であることを深く認識するところからスタートしています。ですから、大阪女学院の解放教育は宗教教育と切っても切れない関係にあります。差別される側の解放だけではなく、差別する側も自らが囚われている罪から解放されなければならないという考え方です。

（大阪女学院中学高等学校 上山史郎先生より）

さまざまな思いを持った仲間、深い歴史を負った地域・場所との出会いは、新しい想像力、新しい勇気、新しいビジョンを生み出すための大きな契機となることを信じて、今年のセミナーに、皆さんこぞってお集まりください。心よりお待ちしております。

●日 程 2019年**8月5日(月)～7日(水)**

* **8月5日の日中**にオプションのフィールドワークがあります。集合場所にご注意ください。

●会 場 大阪女学院・大阪クリスチャンセンター(大阪市中央区玉造 ⇒最終ページを参照してください。)

●参加費 出張 17,000 円 / 自費 15,000 円 / 学生 10,000 円

事前振り込みをお願いします。参加費にはセミナー諸費用、昼食代、ニュース購読・協議会運営協力費、30 回記念論集代が含まれます。部分参加費＝(1 日目 2000 円、2 日目の午前 3000 円、午後 3000 円(除く交流会)、3 日目 2000 円、昼食弁当 700 円、交流会 2500 円)＋協議会運営協力費 3000 円＋資料代 1000 円(6 月 20 日改訂)

フィールドワーク希望者はフィールドワーク参加基本料 2000 円をプラスしてお振込みください。

●申込み・振込締切 **7月19日(金)までに**、下記申込み専用サイトよりお申し込みください。

●申込み専用サイト <https://bit.ly/2Zk94my>

・当協議会ホームページ (<http://zenkiri.junyx.net>) からアクセスできます(全キリで検索)。また、右のQRコードを読み取ってアクセスできます。

・パソコンを使用しない方は、電話 03-3203-0731(NCC 教育部)に申込用紙をご請求ください。



●参加費振込先 郵便振替口座 番号 01620-8-70165

加入者名 「人権教育セミナー」実行委員会 (「 」をつけてください)

●宿 泊 各自でご予約・お支払いください。(混雑期ですのでお早めの予約をお勧めします)

●問合せ先 メール zenkiri2019@gmail.com 問合せはメールをお願いします。

※参加を申し込まれた方には、7月末までに郵便でお知らせをお送りします。
申込書には夏休み中でも郵便物を受け取れる住所をご記入ください。

●主催 全国キリスト教学校人権教育研究協議会／第30回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会

●後援・賛同団体 (2019年5月末現在)

<後援団体名>

日本カトリック学校教育委員会／キリスト教学校教育同盟／全国在日外国人教育研究協議会／日本カトリック学校連合会／キリスト教保育連盟／日本キリスト教協議会(NCC)教育部／大阪私学人権教育研究会(私学人研)

<賛同団体名>

外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会／日本カトリック正義と平和協議会／日本カトリック部落差別人権委員会／在日韓国人問題研究所／在日大韓基督教会／マイノリティ宣教センター／日本キリスト教協議会(NCC)／日本キリスト教協議会在日外国人の人権委員会／日本基督教団在日韓国・朝鮮人連帯特設委員会／日本キリスト教協議会部落差別問題委員会／日本基督教団部落解放センター／日本キリスト教婦人矯風会平和部門／日本聖公会人権問題担当者／日本バプテスト同盟／日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会／日本バプテスト連盟部落問題特別委員会 日本YWCA／部落問題に取り組むキリスト教連絡会議／カトリック大阪大司教区社会活動センター(シナピス)

第30回全国キリスト教学校人権教育セミナー 日程

(オプション) 8月5日(月) フィールドワーク 事前申込と参加基本料 2000 円送金が必要です どのコースも 17 時の開会に間に合うように終了します	
フィールドワーク Aコース 釜ヶ崎とその周辺開発	(申し込み先着 15 人) ☆集合 13 時 JR 環状線新今宮駅 昼食なし 釜ヶ崎の変化がわかる地域とその周辺を歩きます。
フィールドワーク Bコース 生野コリアンタウン	(申し込み先着 15 人) ☆集合 11 時 30 分 JR 環状線鶴橋駅 鶴橋商店街→御幸 森神社→コリアタウン・NPO 法人クロスベイス 昼食あり
フィールドワーク Cコース 大正区沖繩タウン	(申し込み先着 20 人程度) ☆集合 11 時 30 分 JR 大正駅改札口 大正めぐみ教会にて昼食あり
フィールドワーク Dコース 大阪城と周辺の戦争遺跡	(申し込み人数限定なし) ☆集合 12 時 30 分 JR 大阪城公園駅 昼食なし →大阪城周辺戦跡→森ノ宮駅終点
フィールドワーク Eコース 浪速・太鼓の街	(申し込み先着 15 人) ☆集合 13 時 JR 環状線・芦原橋駅北口改札。昼食なし ☆第 3 分科会の参加者はぜひご参加ください。
一日目 8月5日(月) [会場] 大阪クリスチャンセンター (OCC) ホール	
16:30～	受付開始
17:00～	開会 開会礼拝: ヨゼフ・アベイヤ補佐司教(カトリック大阪大司教区)
18:00～	基調説明 会場校あいさつ セミナーのグランドルール説明
19:00	終了 (自由参加の懇親会があります～会場校近隣の飲食店にて)
二日目 8月6日(火) [会場] 午前: OCC ホール 午後: 大阪女学院中学校	
08:30～	受付開始
09:00～	朝の祈り 大阪女学院ハンドベル
09:20～	記念トークセッション「人権教育 これまで これから」
10:50～	リレートーク (各発題者による分科会紹介)
11:30～	沖縄戦争遺品について: 西尾慧吾さん (イエール大学(アメリカ)学生)
12:00～	昼食 沖縄戦争遺品展示・書籍販売
13:00～	分科会①非暴力による平和創り:コンフリクトをどう生きるか 奥本京子さん(大阪女学院大学) // ②外国にルーツをもつ子どもたちと共に生きる 佐藤信行さん(在日大韓基督教会 在日韓国人問題研究所) // ③部落をどう教え、部落差別をどうなくすのか。～学校教育における部落認識の刷新を構想する～ 太田恭治さん(あとりえ西濱代表)、水野松男さん(NCC 部落差別問題委員会) // ④釜ヶ崎と貧困 米加田周子さん(日本キリスト教団釜ヶ崎伝道所) // ⑤困難の中に生きる子ども～被虐待児童・生徒の学校での支援～ 山本秀樹さん(元金城学院中学校教諭) // ⑥「性」から「生」を考える 土肥いつきさん(京都府立高校教員) // ⑦沖縄から学ぶ 中島淳さん(元近江兄弟社高等学校聖書科教諭) // ⑧戦争と教育～子どもたちを戦場に向かわせた『忠臣』楠公父子物語はどのように作られ、 教えられていったのか～ 塚崎昌之さん(関西大学非常勤講師・元大阪府立高校教員)
17:30～	「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」総会
18:30～	交流会(夕食兼)

三日目 8月7日(水) [会場] OCC ホール	
08:30～	受付開始
09:00～	聖書研究：関田寛雄さん
10:30～	わかちあい
11:30～	派遣礼拝：上地武さん(日本基督教団箕面教会)
12:00	閉会あいさつ 閉会

≪プログラムの内容≫

～ 8月5日(月)～

【フィールドワーク】(オプション)

Aコース 釜ヶ崎とその周辺 案内者：水野阿修羅さん

釜ヶ崎が今変わりつつある。戦前からドヤ(簡易旅館)街とスラム、寄せ場として存在してきたが、70年大阪万博を契機にして、日雇い労働者の街になり、バブル経済崩壊でホームレスと生活保護受給者のまちになり、今は生保受給者、年金受給者など高齢者とバックパッカー・インバウンドの外国人と日雇い労働者の街となっている。新今宮駅前の巨大な あいりん総合センターは閉鎖され、センター内に有った労働者斡旋機能は南海電車高架下に移動、市営住宅と病院は移転。今まさに変動の最中にある街を共に歩くことで、変化の「向こう側」にあるものへ心を開く機会にしましょう。

Bコース 生野コリアタウン 案内者：呉光現(オ・クァンヒョン)さん(聖公会生野センター理事)

コリアタウンの中であって多文化共生を目指すクロスベース(外国にルーツを持つ子どもと日本人の子どもが共に学ぶ場)で、日本社会の外国人を取り巻く状況の根底にある在日の歴史、差別問題と現在との関連、他人事ではない、日本人自身の問題についてお話しいたします。

Cコース 大正区沖繩タウン 案内者：上地武さん(日本基督教団箕面教会)

大阪市大正区は、大阪の中にある沖繩と言われ、かつてはリトル・沖繩とも呼ばれていました。区民の4人に一人が、沖繩出身者あるいはその関係者です。大正区と沖繩は強いつながりがあり、その歴史を知ると、様々な差別の中で闘って来た沖繩出身者の姿が見えてきます。しかしそれはまた、同化の中で、見えなくなってきていることも事実です。FWは大正めぐみ教会での講話と教会周辺の訪問です。

大正駅→バス移動 FW：大正区役所→大正めぐみ教会 昼食 話し→ 平尾商店街→ バス移動 大正駅

Dコース 大阪城と周辺の戦争遺跡 案内者：塚崎昌之さん(関西大学非常勤講師・元大阪府立高教員)

戦前期、大阪城公園東部には、大陸への武力的侵略の要となる東洋最大の兵器工場・大阪砲兵工廠があった。その下請工場は膨大な数に上り、経済的侵略の要となった綿紡績とともに、大阪の繁栄を支えた。公園西部には第四師団関係の施設が広がり、8月14日の最後の空襲の痕跡なども残っている。かつて被害者であった中国・韓国の観光客でにぎわう大阪城公園を、戦争の被害・加害の痕跡を求めて歩いて見ていきましょう。

Eコース 浪速・太鼓の街 案内者：太田恭治さん(あとりえ西濱代表)

古くは人々の願い・祈りが太鼓の鼓動に合わせて、私たちの生活を彩ってきました。地域に根差す(株)太鼓正、皮革と人々の生活のかかわりを提示する部落解放同盟浪速支部の展示室を見学し、太鼓ロードを歩いて、私たちの暮らしや文化を部落の現場から学びます。☆第3分科会の参加者はぜひご参加ください。

YouTubeで太鼓正の仕事が見られます→<https://www.youtube.com/watch?v=G02H8A6oyKo> YouTube→太鼓正で検索

【開会礼拝】ヨゼフ・アベイヤ補佐司教（カトリック大阪大司教区）

アベイヤ補佐司教「キング牧師の生き方に学ぶ」(『大阪カトリック時報』2018年4月号より)

(キング牧師は) まず、何よりも、深い信仰を持っていた人でした。神の愛と慈しみを深く体験し、虐げられた人々の苦しみを、御自分の苦しみとしておられる天の父の心を感じ取れた人でした。だから、何もしないではいられなかったのです。この信仰に駆り立てられて、具体的な社会活動に取り組みました。彼は、アメリカの社会の中で痛ましい差別を受けていた黒人や色々な形で疎外された人々の解放は、祈りだけで実現されないことをよく知っていました。だから、力強い社会運動を呼び起こし、信仰に導かれて、非暴力的な社会運動を繰り広げたのです。最後に、暴力を絶対に拒否した運動をリードした彼は、暴力によって暗殺されました。殉教者です。

【基調説明】セミナー実行委員会

【会場校あいさつ】錦織 一郎さん（大阪女学院理事長）

～ 8月6日（火）～

【朝の祈り】大阪女学院中高ハンドベル部

【記念トークセッション】「人権教育 これまで これから」

ベテラン、若い教員織り交ぜて、人権教育・全キリの原点である部落差別や在日韓国朝鮮人差別を克服しようとした取り組みを振り返ります。一方でこれからの人権教育を考えていくために、現在の悩み・困難、さまざまに広がる課題にも触れながら展望を探ろうという試みです。乞うご期待！

【リレートーク】 分科会発題者の皆さんによるリレートークです。たくさんの課題が繋がってこそ人権教育なのに自分が出られる分科会の一つだけ。他の分科会も気になりますよね。他の分科会がどういうことを考えるのか、語っていただきます。

【沖縄戦争遺品について】：西尾慧吾さん（イェール大学(アメリカ)学生)

沖縄戦後70年以上経過した現在でも、沖縄にある壕には無数の戦争遺品と戦死者の遺骨が眠っています。しかしそれほどの深い爪痕を沖縄に刻み込んだ沖縄戦の実相を、本土で深く議論される機会は余り多くありません。辺野古の基地問題などで、沖縄と本土との抑圧関係が一層問題視される今日だからこそ、戦争遺品に刻み込まれた沖縄戦の実相に向き合い、なぜ沖縄戦がそれほど凄惨なものになってしまったか考えてみませんか？ 実際沖縄の壕で出土した遺品を前にして、沖縄と自分たちとの関わりを議論する場を作ろうと考えています。(沖縄戦争遺品の展示は、昼食後に見ることができます)

【書籍販売】ロシナンテ社。市民運動雑誌「月刊むすぶ」をつくる京都の一人出版社。東日本大震災後の「むすぶ」はフクシマに焦点を絞っています。毎年のセミナーのテーマに沿った書籍を多数売りに来てもらってます。

【分科会】

①非暴力による平和創り：コンフリクトをどう生きるか

発題者：奥本京子さん(大阪女学院大学)

平和はギフトみたいにどこかから届くわけではありません。ましてや、平和であると感じ気を抜いた途端、私たちの慢心は次の問題(暴力)を許容してしまいます。私たちの身近な生活の中で、また社会や国どうしの関係において、対立・摩擦・紛争(コンフリクトと呼びます)が発生したとき、どのように向き合えばいいかを実践的にトレーニングしてみましよう。本分科会は、ワークショップ形式で、ディスカッ

ションしたり、身体を動かしたりして、トレーニングします。楽しいワークを通じて、参加者全員が一緒になって、実感を伴う学びを促進したいと考えています（シャイな方も大歓迎です）。

②外国にルーツをもつ子どもたちと共に生きる

発題者：佐藤信行さん（在日大韓基督教会 在日韓国人問題研究所）

いま日本に暮らす外国人は280万人。その他に、日本国籍を取った人や国際結婚から生まれた子どもなど、外国にルーツをもつ日本籍者は推計で160万人。日本は多民族・多文化の「移民社会」になりつつあります。

在日コリアンをはじめ、これら移民の子どもたちの教育課題と、マジョリティである日本人の子どもたちへの多文化教育の課題を考えます。

③部落をどう教え、部落差別をどうなくすのか。～学校教育における部落認識の刷新を構想する～

発題者：太田恭治さん（あとリエ西濱代表）、水野松男さん（NCC 部落差別問題委員会）

コーディネーター：鳥井新平（近江兄弟社小学校元教員、日本キリスト教団部落解放センター活動委員）

分科会では部落出身生徒が自己肯定感、自尊感情を醸成でき、部落差別への抵抗力となること、また、部落出身でない生徒にとっても自身の暮らしや文化に対する気づきとなる教育内容を考えます。

部落差別解消推進法が2016年12月に制定され、部落差別をなくすことが国や地方自治体の義務となり、調査、相談、人権教育啓発の推進も具体的な課題として明記され、教育の役割は重要です。改めて部落差別をどうなくすか共に考えます。

④釜ヶ崎と貧困

発題者：米加田周子さん（日本キリスト教団釜ヶ崎伝道所）

「釜ヶ崎」が、担ってきた「安全弁かつ安価な労働力」として、人を「コマ」扱いする仕組みは、この数十年かけての派遣法改悪により、非正規職として全国化。さらに、この春からは、若い外国人労働者へとシフト。2020年東京五輪、2025年大阪万博を控え、為政者たちの「棄民」としか言いようのないような政策が、一層加速しつつあるとの強い危機感を覚えます。

今の学生たちが世へと出て行く頃、この国、そして世界はどうなっているのか。講師自身の「出会いによって変わる」という経験を振り返りつつ、「人に人として出会う」という人権の基について一緒に考えたいと思います。

⑤困難の中に生きる子ども～被虐待児童・生徒の学校での支援～

発題者：山本秀樹さん（元金城学院中学校教員・愛知いのちの電話協会・子どもの虐待防止ネットワークあいち（CAPNA）・名古屋市東区要対協専門委員）

小さなこどものいのちが奪われる虐待報道が後を絶たない。学校でのいじめや不登校の背景に虐待がある場合が多い。最近ようやく、こどもの目の前でパートナーに暴力を振るう「面前DV」を心理的虐待とし、こどもの受忍限度を超えて勉強させられる「教育虐待」も認知されてきた。一方これだけこどもとの関わりが深い学校から児相への虐待通報は僅か1割弱だ。こどもは学校で必ずSOSを発信している。学校は最初のシェルターであってほしい。

⑥「生」から「性」を考える

発題者：土肥いつきさん（京都府立高校教員）

近年、「LGBT」という言葉はポピュラーになってきました。しかし、LGBT について考えることは、単に「少数の人々の問題を知る」ということにとどまるものではありません。そこには、私達一人ひとりが、自分自身をどう見つめ、どう生きていくのかという問いが隠されています。

20年前、わたしが自分を見つめ、どう生きていくかという試行錯誤はこのセミナーからはじまりました。そんなわたしをネタに「ありのままのわたしを生きる」ための手がかりを「セクシュアリティ」という側面から一緒に考えてみませんか？

⑦沖縄から学ぶ

発題者：中島淳さん（元近江兄弟社高等学校聖書科教諭）

1967年、私の高1の夏休みに「復帰」前の沖縄に母方の祖父母の墓参を兼ねた一週間の旅は様々な深い印象を残した。以来、米軍による事件、事故は長崎に生まれ育った私にも「悲しみ」、「憤り」、「なぜ」が付きまとった。1995年9月の「少女暴行事件」以来勤務していた高校で新たな取り組みを始めた。担当していた聖書科で「沖縄の歴史」を学ぶことと教師対象の「沖縄研修旅行」。試行錯誤、思わぬ展開を分かち合いたい。

⑧戦争と教育～子どもたちを戦場に向かわせた『忠臣』楠公父子物語はどのように作られ、教えられていったのか～ 発題者：塚崎昌之さん（関西大学非常勤講師・元大阪府立高校教員）

小学校に続き、中学校でも「道徳」が教科化されました。全キリも再三、反対意見を表明しましたが、強行されました。戦前、「楠公父子教育」は、「歴史」に止まらず、「修身」・「国語」・「音楽」等にも用いられました。その根幹には教育勅語がありました。「楠公父子教育」の実際を学び、参加者の体験と思いを織り交ぜながら、今日の道徳教育の問題点について考える分科会にしたいと思います。講師の話では学校教育に止まらず、社会教育の面にも触れます。

～ 8月7日（水）～

【聖書研究】 講師 関田寛雄さん（全国キリスト教学校人権教育研究協議会会長）

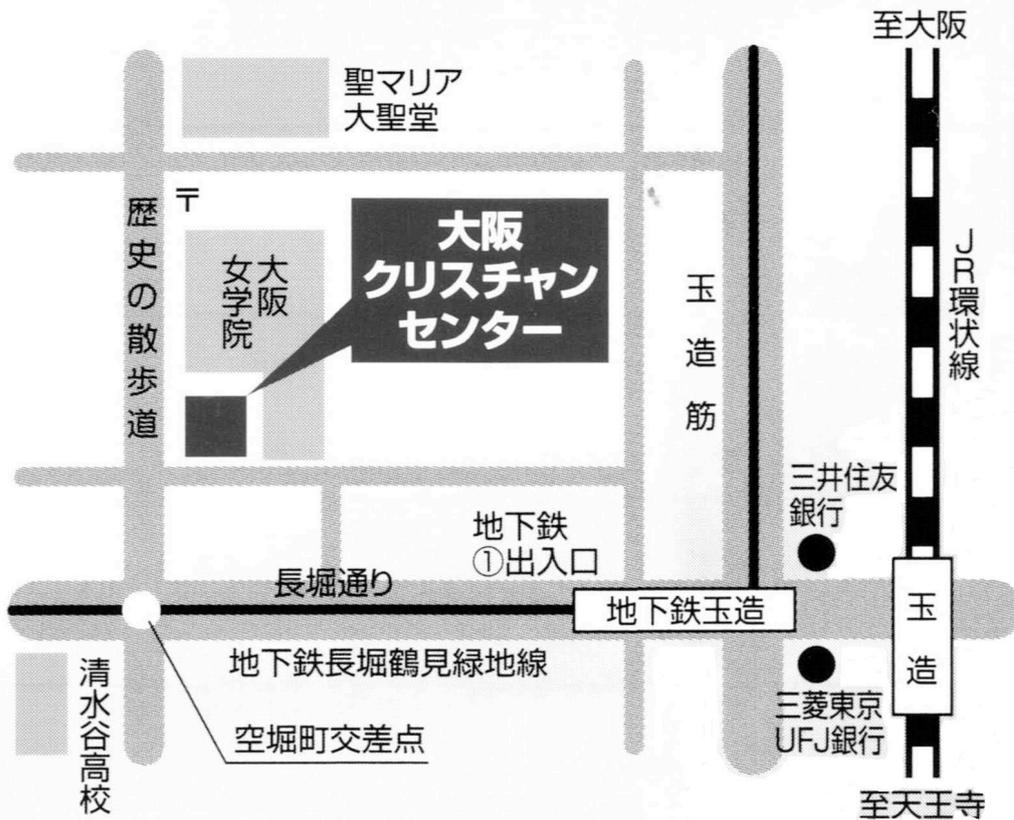
【わかちあい】 各分科会で提起された諸問題について共有します。自分が出られなかった分科会でどんな話が出たかを分かち合い、それぞれのテーマを結びつけていきましょう。

【派遣礼拝】 上地武さん（日本基督教団箕面教会）

【閉会あいさつ】 中村真喜子さん（大阪女学院中学校高等学校 校長）

大阪クリスチャンセンター・大阪女学院への道順

(1日目フィールドワークの集合場所は、コースごとに異なりますのでご注意ください！)



- JR環状線玉造下車徒歩10分
- 地下鉄長堀鶴見緑地線玉造下車①番出口を右に出て徒歩約5分
- 空堀町交差点をレンガの歩道沿い北へ約30m

大阪クリスチャンセンターに宿泊施設はございません。近隣のホテルを各自で予約してください。

(近隣ホテル例)

●なにわのみやホテル 大阪市中央区法円坂1-1-38
Tel 06-6947-0210 (徒歩7分 大阪女学院最近)

●KKRホテル大阪 大阪市中央区馬場町2-24
Tel 06(6941)1122 (徒歩約10分・一番近いホテルです)

●ホテル・ザ・ルーテル 大阪市中央区谷町3-1-6
Tel 06(6942)2281 (地下鉄谷町4丁目駅下車1分 玉造から地下鉄2駅)

○駐車場スペースがございませんので、公共交通機関をご利用ください。

○ タクシーをご利用の場合

タクシーをご利用の場合は、玉造の「大阪女学院」正門とおっしゃれば、わかりやすいです。その正門の右隣にセンターがあります。

○ JR玉造駅（大阪環状線）からセンターまでの道順

JR玉造駅の北口改札に出てください。

⇒改札を出て駅コンコースを抜けると「長堀通（ながほりどおり）」に出ます。

⇒そこを左(西)に曲がり、信号5つ目が「空堀町（からほりちょう）交差点」です。

⇒そこを右(北)に曲がり、約50メートル先の右側にセンターがあります。

徒歩約10分です。

○ 地下鉄(大阪メトロ)玉造駅（長堀鶴見緑地線(ながほりつるみりょくちせん)）からセンターまでの道順

大阪メトロ玉造駅の改札はひとつです。

改札を出て左に曲がり、

⇒つきあたり右側の1番出口の階段を上ると「長堀通（ながほりどおり）」です。

⇒長堀通に出て、右(西)に曲がり信号2つ目が「空堀町（からほりちょう）交差点」です。

⇒そこを右(北)にまがり、約50メートル先の右側にセンターがあります。

徒歩約5分です。

○ 新幹線 新大阪駅からJR玉造まで

改札内の「在来線連絡改札口」を通り、(JR玉造駅まで新幹線乗車券がそのまま使えます。)

⇒在来線の「神戸方面行き」ホーム（1階）で乗車してください。

⇒大阪駅まで一駅、約5分かかります（どの列車に乗ってもとまります）。

⇒大阪駅で乗り換え＝2番線の環状線外回りホームへ移動し、

⇒環状線外回り乗車、玉造駅で下車してください（約15分）。

新大阪からセンターまでの所要時間は約40分です。

○ 新幹線新大阪駅・JR大阪駅方面、なんばから地下鉄(大阪メトロ)でお越しになる場合

地下鉄御堂筋線にお乗りください。

⇒「心齋橋」駅で長堀鶴見緑地線（森ノ宮・京橋・門真南行き）に乗り換え、

⇒「玉造」駅までお越しください。

1日目フィールドワークの集合場所は、コースごとに異なります。ご注意を！

（フィールドワーク集合場所は、後日郵送でお知らせします）